

転員がいた。

○HPCI の操作について

- ・ HPCI が起動した後、原子炉水位低、原子炉水位高による HPCI の起動と停止の繰り返しを回避するため、原子炉水位を確認しながら HPCI の流量調整を実施していた※。この流量調整はテストラインを活かし実施していた。なお、ミニマムフローラインは S/C の水位が上昇することを懸念して全閉操作していた（図 1）。
- ・ また、この時 HPCI は復水貯蔵タンクを水源として原子炉への注水を行っていた。

○格納容器スプレイについて

- ・ 格納容器の圧力／温度を低下させるため、表 1 の時系列で格納容器スプレイを実施していた（図 2）。

表 1 3号機 格納容器スプレイに関する時系列

日付	時刻	事象
3/12	12:06	DDFP による S/C スプレイ開始
3/13	3:05	DDFP による S/C スプレイ停止
	5:08	DDFP による S/C スプレイ開始
	7:39	DDFP による D/W スプレイ開始
	7:43	DDFP による S/C スプレイ停止
	8:40~9:10	DDFP による D/W スプレイ停止

※：操作手順において、原子炉水位低（L-2）／原子炉水位高（L-8）による起動、停止の繰り返しによって HPCI の運転継続を損なわせてはならない旨が定められている。

(3) 設備の設計という観点での HPCI 配管破断の可能性について

平成 23 年 5 月の解析においては、計測された原子炉圧力及び格納容器圧力の挙動に合う条件の一例として、HPCI の蒸気配管を通じて格納容器外へ蒸気がリークするとした場合について記載しているが、7 月 28 日に公表したとおり、設備の設計という観点で HPCI 配管が破断し大量の蒸気が漏えいしていたということは考えられない。

- ・ HPCI 動作期間においては原子炉水位が維持されていたことから、原子炉から発生する蒸気は HPCI に供給され、原子炉への注水が行われていた。
- ・ 仮に HPCI の蒸気配管が破断し、格納容器外に蒸気が流出した場合、HPCI